

報道関係各位
プレスリリース

2025 年 3 月 12 日
DIC 株式会社
公益財団法人国際文化会館

DIC と国際文化会館がアート・建築分野を起点とする協業に合意 ～建築ユニット SANAA が「ロスコ・ルーム」を設計～

DIC 株式会社(社長執行役員：池田尚志、以下「DIC」)と公益財団法人国際文化会館(理事長：近藤正晃 ジェームス、以下「国際文化会館」)は本日、協業に合意したことをお知らせいたします。

DIC は、DIC 川村記念美術館における「作品」「建築」「自然」が融合する体験の継承と、企業・社会へのインパクトを最大化することができる都心の立地を探していました。国際文化会館は民間外交・国際文化交流のパイオニアとして、アート・建築分野での発信のさらなる強化を目指し、世界的なアートコレクションを擁する協働パートナーを求めています。今回、両者の理念と戦略的目標が合致したことにより、本協業が実現しました。(具体的な協業の内容は以下の通りです。)

■協業の内容

- DIC 株式会社と国際文化会館は、アート・建築分野を起点とする協業に合意しました。
- DIC 川村記念美術館は、卓越した戦後アメリカ美術を中心とする 20 世紀美術品を所蔵しており、そのコレクションを中核に国際文化会館に移転します。
- DIC 川村記念美術館は、所蔵するマーク・ロスコの＜シーグラム壁画＞7 点すべてを、国際文化会館が建設する新西館へ移設します。国際文化会館は、同館に建築ユニット SANAA (添付資料 1) が設計する常設展示室「ロスコ・ルーム」を開設します。
- DIC と国際文化会館は、新設する「ロスコ・ルーム」を共同運営し、アート・建築の力によって民間外交・国際文化交流を推進する公益プログラムの充実を図ります。
- 上記の公益プログラムを充実させる上で、アート・建築界を代表する有識者・アドバイザーの諮問・協力を得ます(添付資料 2)。
- DIC と国際文化会館はアート・建築分野を起点に幅広い連携を追求していきます。

都心にありながら緑豊かな環境に恵まれ、アートや文化、歴史が調和する特別な空間である敷地を活かし、DIC と国際文化会館は新たな芸術・文化的体験を創出していきます。企業である DIC と公益財団法人である国際文化会館が連携することにより、アートが、ビジネスと公益の双方にインパクトを生み出す新たな協業の形を国際社会に示し、貢献をしていきます。

■DIC 株式会社 社長執行役員 池田尚志からのコメント

「当社にとって美術館運営は、より多くの人々の心に「彩りと快適」を届ける機会として、また企業と社会の共生の在り方を体現するものとして、大切にしてきたものです。この度、国際社会において文化交流と知的協力の中心的な役割を担われてきた国際文化会館様と、より大きな理念の下でこの活動を発展させていく機会をいただけたことに、心から感謝しております。それぞれに培ってきた伝統を大切にしながら、民間企業と公益財団による新たな価値の創造に向けて鋭意努力してまいります。」

■公益財団法人国際文化会館 理事長 近藤正晃ジェームスからのコメント

「国際秩序が揺らぎ、国家間の対立が深まる中で、民間外交や国際文化交流の重要性は一層高まります。SANAA が設計する常設展示室「ロスコ・ルーム」が、対立する人々の心に静かな内省をもたらし、共感の輪を広げ、相互理解を深めることで、平和を生み出す場となるならば、それはまさに歴史的な意義を持つことでしょう。このような公益プログラムを DIC 様と共同運営できることに、心から感謝しています。」

■Kate Rothko Prizel 様並びに Christopher Rothko 様(マーク・ロスコご遺族)からのコメント

「DIC 川村記念美術館とその象徴的なコレクションは、アート愛好家に長年愛されてきましたが、新たに東京に拠点を移しても、その価値観は受け継がれ、さらに多くの来館者が美を堪能できることでしょう。」

なかでも、ロスコを象徴する〈シーグラム壁画〉7点を展示するためのロスコ・ルームは魅力的な瞑想空間であり、新しい美術館で再現されることをとても喜んでおります。」

■建築ユニット SANAA からのコメント

「国際文化会館は日本モダニズム建築の代表作である本館と、七代目小川治兵衛による名勝の庭園が見事に調和した空間となっています。私どもが新西館を設計する上では、自然と建築の融合、歴史の継承と新しい風景、知的対話・文化交流を生み出す空間という 3 つのコンセプトを建築として具現化できるよう設計してまいりました。この度、世界的な文化財である〈シーグラム壁画〉の「ロスコ・ルーム」を設計するという機会に巡り合う事ができ大変光栄に思います。」

■DIC 株式会社について

DIC は日本で有数のファインケミカルメーカーです。DIC を中心に世界全体で Sun Chemical Corporation を含む約 180 の子会社によってグループが構成され、60 を超える国と地域で事業を展開しています。グループ全体として、人々の生活に欠かせない包装材料、テレビや PC 等のディスプレイに代表される表示材料、スマートフォンなどのデジタル機器や自動車に使用される高機能材料を提供するグローバルリーディングカンパニーと認知されています。これらの製品を通じて、社会に安全・安心、彩り、快適を提供しています。DIC グループは持続可能な社会を実現するため、社会変革に対応した製品や社会課題の解決に貢献する製品の開発にグループ一丸で取り組んでいます。連結売上高は 1 兆円を超え、世界全体で 22,000 名以上の従業員を有するなか、DIC グループはグローバルで様々なお客様に寄り添っていきます。詳しくは、<https://www.dic-global.com/>をご覧ください。

■公益財団法人国際文化会館について

国際文化会館は、日本における民間外交と国際文化交流のパイオニアです。1952 年の設立以来、一貫して、日本・アジア太平洋地域の平和と繁栄に貢献してきました。ミッションは「多様な世界との知的対話、政策研究、文化交流を促進し、自由で、開かれた、持続可能な未来をつくることに貢献する」こと、ビジョンは「アジア・太平洋地域を代表する知の交流拠点となる」ことです。国際文化会館の本館はモダニズム建築を代表する登録有形文化財、庭園は七代目小川治兵衛による名勝です。プリツカー賞受賞者の SANAA が設計する新西館では、「シンクタンク部門」と「アート・デザイン部門」の公益プログラムを拡充します。詳しくは、<https://ihj.global/> をご覧ください。

■問い合わせ

DIC 株式会社 コーポレートコミュニケーション部

担当：三宅・亀山 MAIL: dic-press@ma.dic.co.jp TEL: 03-6733-3033

〒103-8233 東京都中央区日本橋 3 丁目 7 番 20 号 ディーアイシービル

公益財団法人国際文化会館 広報グループ

MAIL: pr-r@ihj.global TEL: 03-3470-9810

〒106-0032 東京都港区六本木 5-11-16

*添付資料 2 の有識者・アドバイザーへのお問い合わせは、国際文化会館宛にお願いいたします



妹島 和世

1956 年生まれ。1981 年日本女子大学大学院修了。
1987 年妹島和世建築設計事務所設立。1995 年西沢立衛と SANAA 設立。現在、ミラノ工科大学教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授、横浜国立大学名誉教授、東京都庭園美術館長。主な妹島和世建築設計事務所の作品に再春館製薬所女子寮、梅林の家、犬島「家プロジェクト」、すみだ北斎美術館、日本女子大学目白キャンパスがある。



西沢 立衛

1966 年生まれ。1990 年横浜国立大学大学院修了。妹島和世建築設計事務所を経て 1995 年妹島和世と SANAA 設立。1997 年西沢立衛建築設計事務所設立。現在、横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授。主な西沢立衛建築設計事務所の作品に森山邸、House A、十和田市現代美術館、豊島美術館、軽井沢千住博美術館がある。



グレイス・ファームズ

SANAA

2004 年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 金獅子賞、2010 年プリツカー賞、2022 年高松宮殿下記念世界文化賞建築部門など数多くの賞を受賞。主な作品に、金沢 21 世紀美術館、ニューミュージアム（アメリカ）、Rolex ラーニングセンター（スイス）、ルーヴル・ランス（フランス）、グレイス・ファームズ（アメリカ）、荘銀タクト鶴岡、日立市新庁舎、ボッコーニ大学新キャンパス（イタリア）、ラ・サマリテーヌ（フランス）、シドニー・モダン・プロジェクト（オーストラリア）など。

添付資料2 有識者・アドバイザーからのコメント

＊有識者・アドバイザーへのお問い合わせは、国際文化会館宛にお願いいたします。

敬称略、五十音順



ジョシュア・ウォーカー

ジャパン・ソサエティー（米）理事長。政治学博士。

現在のように地政学的な緊張が高まり、国際交流が最も必要な時には、国家間の対話は逆にますます困難になってしまいます。そのような難しい環境下でも、アートは、共感を育み、人類をつなげる力を持っている。国際文化会館がDICとの協業を通じて文化外交に注力しようとしている事に感銘を受けると同時に、国際文化会館の戦略的なパートナーとして、ニューヨークと東京における芸術分野での協力を楽しみにしています。



大林 剛郎

大林組会長、大林財団理事長。日本を代表する現代アートのコレクター

現代社会において、企業は経済活動を超え、文化や芸術の振興を通じて豊かな未来を創造する責任を担っています。国際文化会館がDIC株式会社が保有するロスコ作品を展示するための「ロスコ・ルーム」を開設することは、まさにアートと社会の結びつきを深める素晴らしい取り組みです。世界的に著名なアーティストであるマーク・ロスコの代表作とも言えるこれらの作品群が、国際文化会館という民間外交・文化交流の場に展示されることで、新たな対話が生まれ、文化的な価値が一層広がり、さらには企業の新たな社会貢献の形を示してくれると期待しています。



Photo: Shintsubo Kenshu

片岡 真実

森美術館 館長。2023年度から国立アートリサーチセンター長を兼務。

現代アートの発信地として発展してきた六本木に、マーク・ロスコの重要な作品を常設する場所が新設されることを大変嬉しく思います。若い頃に米国テキサス州ヒューストンにあるロスコチャペルを訪れ、荘厳な空気と融合した芸術体験は忘れられない思い出となりました。国際的な知的交流の拠点としての役割を長らく果たしてきた六本木の地に、国境や文化を越えた対話のための場が生まれることを心から待ち望んでいます。



寺田 航平

寺田倉庫代表取締役社長。経済同友会副代表幹事、ACC 日本財団副理事長を兼務。

アートは人の心を大きく動かす力を持っています。私達はアート保管の世界から、アートのエコシステムの活性化やアートを活用したまちづくりを通して、アート業界の発展に向けた様々な課題解決や問題提起を行って参りました。ロスコの作品には、人の心に大きく働きかける精神性があり、それが国際文化会館がこれから創る知的空間と響き合うことで、新たな対話や創造的な発想が生まれ、日本の新しい未来の創造や、この場所自身が世界との架け橋となれる事を確信しております。



ライオネル・バーバー

FT 編集長（2005-20 年）、テート・ギャラリー評議員・会長（2011-21 年）

国際文化会館で開設される SANAA 設計の「ロスコ・ルーム」は、アート・建築・自然が見事に融合し、世界中のアート愛好者が間違いなく訪れるべき目的地となるでしょう。芸術的な価値を超えて、この取り組みは、アートがどのように文化外交を促進し、未来の企業がどのようにして芸術を支援し続けるかを示すものとなるでしょう。



森 京子

森美術館理事長。大林財団評議員や東京交響楽団理事を兼務。

六本木は、世界的なアートの発信地として、多様な文化が交差する特別な場所です。この地に、DIC 川村記念美術館からロスコ・ルームを迎える計画は、都市とアートの融合という観点でも意義深いものと確信しております。国際文化会館に世界的にも貴重なロスコの作品がまとまって展示されることは、訪れる方々に新たな感動や創造性をもたらし、森美術館と共に六本木の文化都心としての価値を一層高めていくことでしょう。この試みが、アートと社会の結びつきを強め、未来への豊かなビジョンを共有する場となることを心より期待しております。

2025 年 5 月 23 日追加更新



清家 愛

港区長。「愛があふれる国際都市 港区」を皆さまと共につくる。

このたび、国際文化会館と DIC 株式会社の協業により、ロスコ・ルームをはじめとする貴重なアートが六本木に迎え入れられることは、港区の文化的魅力をさらに高め、世界中から人々を惹きつける大きな力となるでしょう。同時に、アートは未来を担う子どもたちが感性を育み、「愛にあふれる国際都市・港区」の実現に大きく貢献してくれるものと期待しています。

■ 問い合わせ

公益財団法人国際文化会館 広報グループ

MAIL : pr-r@ihj.global TEL: 03-3470-9810

〒106-0032 東京都港区六本木 5-11-16